

小諸市動物園の 再整備に向けて

園 懐古園事務所 ☎ 22-0296

大正15年に開設以来、県内最古の動物園として市民の皆さんをはじめ多くの人に愛されてきた小諸市動物園。現在、動物園では51種278点の動物が飼育されています。

小諸市動物園も加盟している日本動物園水族館協会では、「種の保存」「教育・環境教育」「調査研究」「レクリエーション」を動物園の社会的役割として挙げており、小諸市動物園では、「調査研究」を除く3つの役割をすすめています。

「教育・環境教育」では、電線に触れ片方の羽を失ってしまった「チョウゲンボウ」や森林伐採により巣を失い親から育児放棄されてしまった「ムササビ」など何らかの理由により保護された動物を通じて、環境破壊問題や動物の生命に対する大切さを考えられる機会を説明ガイド等により行っています。「種の保存」では、ファンボルトペンギン（IUCN 絶滅危惧Ⅱ類ワシントン条約付属書Ⅰ）の繁殖について、他園との連携をすすめています。「レクリエーション」では、「ナイトズー」「流しアジ」など季節ごとのイベントや小動物とのふれあい体験を実施し、来園者が動物に親しみを感じる場所になるような取り組みを行うとともに、来園者が動物の生態や様子を見て学んで「動物への興味や関心」「癒しや楽しみ」を感じられる空間となるよう心掛けています。

一方で、92年目を迎えた動物園の課題には施設の老朽化が挙げられ、また飼育動物の高齢化も進み、動物園の社会的役割を進めるには難しい環境になっています。

また、人々の価値観が多様化するなかでニーズは常に変化し、現状ではそのニーズに応えることが難しい状況です。

多様化するニーズに応え、動物園の社会的役割を進め、いつまでも地域の皆さんに愛され続ける動物園をめざすため、小諸市動物園は8年後の開設100周年に向けて再整備を行うこととなりました。



片方の羽を失ってしまったチョウゲンボウと森林伐採による影響から保護されたムササビ。



夏の風物詩「流しアジ」は、大勢のお客様が見物に来る。



獣舎の至る箇所に長年営業してきた痕跡が残り、再整備の必要性が伺える。